

国際日本学研究科  
修士学位請求論文 要旨

論文題名

中国語圏における BL 小説出版市場をめぐって  
—大陸・台湾・香港—

国際日本学研究科  
国際日本学専攻 博士前期課程  
ポップカルチャー研究領域

入学年度	2022 年度
学生番号	4911221002
氏名	蔡倩伶
指導教員	藤本由香里
提出日	2024 年 1 月 12 日

90年代に日本の流行文化の一つとして入ってきたBL（中国語では耽美）文化は、現在、台湾・香港、そして大陸といった中華圏でも人気であり、広く読まれている。

BL文化は、中華圏とくに大陸では、インターネットの文学サイトでの投稿小説の形で発展しており、たとえ出版される場合でも、BL要素を抜いたプロロマンス小説として出版されるのが一般的である。一方、90年代に出版自由化となった台湾では、大陸では出版できないBL小説も出版可能であり、大陸のBL作家にとっては、台湾での出版が、自分の作品を原作通りの形で出版する大きな手段となっている。また、世界的なヒット『魔道祖師』の日本版も台湾版を底本にしているなど、台湾は、大陸のBL（プロロマンス）作品が大陸を超えて世界にヒットしていくためのステップボードの役割を果たしているともいえる。

だが近年、大陸ではBL小説への規制が強まっており、とくに習近平政権になってから、BL作家の逮捕やBL投稿サイトの閉鎖などがあいつぎ、その厳しさは年々増しているように思える。

本研究では、そのように大陸でのBL規制が強まる中で、台湾BL小説市場と大陸の作家・作品はどのような関係にあるのか、また、この10年の間でどう変わってきたのかを探ることを主題としている。

そこでまず第1章では、大陸本土において、とくに習近平政権以来、ネット上のBL小説に対して、どのような規制が行われてきたかの正確な実態を探った。その結果、思った以上に、習近平政権になって以来、国家としての一貫的な意図のもとに、特にネットでの取り締まりが組織的に行われてきたことが明らかになった、

第2章では、台湾最大のネット書店である「博客来」で2023年5月時点で取り扱いのある繁体字版のBL小説のうち2013年1月以降に出版されたものを分析対象とし、その原産国（原出版国あるいは作家が所属する地域）の構成と推移、R18の割合、台湾・大陸それぞれの作家たちが利用しているネット文学サイトとサーバーの所在、台湾の各出版社ごとの出版内訳とその推移……などについて詳しい分析を行った。

その結果、「博客来」で2023年5月時点で販売されているBL小説の原出版国は、台湾・大陸・日本・タイ・韓国・香港・イギリス・アメリカ・マレーシアなど、複数の国からの作品があることが分かった。また、全体の作品数の約4割が、大陸の作家が書いた輸入作品であり、最も多い割合を占めることがわかった。

台湾のBL小説市場において日本発のBL小説は、かつてはかなりの割合を占めていたが、近年はその数は急激に減少している。それに代わって人気を伸ばしてきたのが大陸発のBL小説であるとも言えいえ、現在では、台湾で出版されているBL小説の7割以上が、大陸、あるいは台湾の作家が書いた中華BLであった。その中で近年、かつてよりは大陸の作品の割合が減り、台湾の作品が増えてきている傾向も見られた。また、先述のように原産国が多彩になったのは2021年以降のことであることも分かった。

また、台湾BL小説出版市場における大陸発の作品の割合の経年変化を調べていった結果、それが大陸におけるBL小説規制と密接なかわりがあることがわかった。たとえば、2014・2019年の大陸での大規模なBL小説規制のあと、台湾での大陸発BL小説

出版の割合、とくに R18 の作品の割合が、目に見えて減っていることが確認されたのである。また、台湾の BL 小説出版市場においては、思った以上に大陸の作家とのかかわりが大きいことが、大陸の作家・読者と台湾の出版社との関係、それをめぐる炎上事件からうかがい知れた。

当初、規制の厳しい大陸の BL 作家にとって、台湾で作品を発表できる可能性の価値は大きいのではないかと考えてはいたが、調査の結果、むしろ、台湾 BL 小説出版市場における大陸の作品の存在感の大きさ、そしてある時期までの大陸の読者の価値の大きさの方が浮かび上がってきたと言える。

また、台湾で作品が出版されている大陸の作家が使用している文学サイトのサーバーの所在を含む詳しい分析も行った結果、大陸の BL 作家は大陸内のプラットフォームばかりでなく、海外にサーバーがあるプラットフォームも利用していることがわかった。海外にサーバーがあれば、大陸政府によって検閲の対象となったり、サイトが閉鎖されたりする可能性は薄いですが、これまでの大陸政府の監視・規制の歴史を見ると、ある日突然、接続が遮断されてしまう可能性もある。

大陸で BL 小説が出版される際には、性描写が削られてプロロマンスになるのが通例であり、出版点数も多くはないが、大陸と台湾で、同一書籍が出版されることもある。大陸と台湾で出版される同一の BL 小説作品を比較したところ、大陸版ではタイトル名が原作とは別の名前に変えられていることが多く、表紙デザインにおいても顕著な違いを示していることがわかった。繁体字版では攻め受けのキャラクターのイラストを前面に出す傾向があるが、簡体字版では小説の雰囲気や色を重視し、BL という要素を表に出さないデザインがほとんどである。ただ、大陸版であっても、帯では、原タイトル名が書かれていたり、カップリング名がかかれていたりもした。

第 3 章の台湾の BL 小説出版関係者へのインタビューにおいては、台湾の BL 小説出版市場の黄金期と衰退の過程の聞き取りをした。その過程で、台湾の一部の BL 出版社は、大陸の作家の作品を出版するだけでなく、数年前まで、出版した実体書の大陸での販売を行っていたという驚くべき事実が分かった（本来、大陸に書籍を輸出するためには、大陸政府の検閲と特別な許可をとらなくてはならない）。しかし近年、大陸の実体書輸出の検閲・制限が厳しくなったことで、大陸での本の販売ができなくなり、台湾の BL 出版社の一部は大きな打撃を受けたという。

第 4 章では台湾の出版事情のさらなる分析を行った。その中で、他社を大きく引き離して業界のトップを走っていた威向文化は、2018 年以降、急激に売上が減少する。調べていくと、じつはこの背景に、威向文化は「台湾の読者よりも、大陸の作家や読者を大事にしているのではないか」という炎上事件があったことが明らかになった。同様の炎上事件は、業績が順調に伸びている平心出版についても起こっており、大陸発の BL 小説は、台湾の BL 小説出版市場にとって非常に重要な部分であると同時に、両者の間には緊張もあり、火種にもなりうるということがわかった。

以上、本研究では主に、政府からの厳しい規制のなかにある大陸発の BL 小説と、台湾の BL 小説出版市場とのかかわりを中心に分析してきた。分析の結果、両者のかかわりは

思った以上に密接で、とくに台湾の BL 小説出版市場にとって、大陸の作品・作家は想像以上に重要であり、大陸での BL に対する規制が、ただちに台湾の BL 小説市場に直接影響を与えるのだということがわかった。